

〈研究報告〉

## 体験学習を通じたアクティブ・ラーニング型 授業の構築

林 翠 芳  
大 塚 薫  
ガルシア デル サス エバ

### 要 旨

本研究課題は、地域の大学に通う留学生というリソースを地域の振興等に役立てることに主眼を置き、体験的な教育活動を通して高知の文化を学ぶとともに、留学生の目線から地域の振興を考え、地域の活性化に寄与することを目的としている。本研究課題の実現、すなわち留学生が地域の課題解決に参加するという一連の教育活動を通して、地域とともに生きる自覚を育み、地域の一員として活躍することにより、双方向往來の關係の樹立ひいては地域との互惠關係の構築につながると考えられる。

### 【キーワード】

体験学習、地域課題、アクティブ・ラーニング、異文化理解、コミュニケーション力の育成

### 1. はじめに

本研究課題は、地域の大学に通う留学生というリソースを地域の振興等に役立てることに主眼を置き、体験的な教育活動を通して高知の文化を学ぶとともに、留学生の目線から地域の振興を考え、地域の活性化に寄与することを目的としている。本研究課題の実現、すなわち留学生が地域の課題解決に参加するという一連の教育活動を通して、地域とともに生きる自覚を育み、地域の一員として活躍することにより、双方向往來の關係の樹立ひいては地域との互惠關係の構築につながると考えられる。

また、本研究課題で取り上げる体験的な教育活動の手法は、体験・実践を通して留学生の企画力、行動力、コミュニケーション力、グローバルな視野等の基礎的・汎用的能力を培う効果があり、異なる文化、異なる価値観にぶつかる社会体験を通じて、心身ともに鍛えられ、主体的な学びを促し、「教育の質的転換」が期待できると考えられる。

本研究課題は2017年4月から7月にかけて、地域課題に関する体験型プログラムの一環として高知大学国際連携推進センターの日本語総合コースにおいて実施した「地域文化理解」の授業について考察を行ったものである。授業では単に体験授業を組み入れるだけでなく、事前・事後の学習のほか、体験学習において受講生（留学生）自らが地域の方々と接するようにインタビューを仕掛けるとともに、留学生が体験活動を通して地域の活性化について考えてもらうことに重きを置いた内容であった。最終発表は「私が考える高知の地域振興」、「高知観光発掘」の二つの課題について考えるものであった。

## 2. 「地域文化理解」の授業概要

「地域文化理解」の授業は、2017年度第1学期に国際連携推進センターの日本語総合コースの授業として「地域の伝統文化を通じた教育活動を通して、留学生に地域課題を理解してもらうとともに留学生の目線から地域の振興を考え、地域活性化の糸口を探ることを目的」に開講された。

15コマの授業において、まず、オリエンテーションと高知の紹介の講義時に受講生に目的意識を持ってもらうために、学生団体「コンパス」が地域と一体となって行っている活動内容を紹介してもらった。これは、最終的に受講生自らが高知県の地域活性化のためにどのように役に立つことが可能かを考えてもらうきっかけとするためである。

また、体験学習は三回実施し、体験学習の前に事前学習、体験学習実施後にグループごとに活動の振り返り、情報共有、よかった点・反省点等を話し合い、また各自紙ベースによる振り返りシートを提出してもらった。振り返りシートの提出は、授業の一環として組み入れ、活動中の感想等を含め体験活動ごとに受講者全員に課した。各体験授業時には、地元の方との交流を促し、地域事情の理解を深めるためにインタビュー活動を実施した。その事前準備としてインタビューシートを配布し、インタビューの仕方やインタビューに対する挨拶、質問の回答に対する受け答えなどについて説明した後、グループごとにインタビューをし合い、設問内容を考案する予行練習を行った。そして、体験学習実施後には、グループに分かれてインタビュー活動で得た回答内容をグループのメンバーで共有し合った後、一人ひとりがクラス全員の前で発表してもらい、情報を共有した。

授業は以下の通り実施された。

〈表1〉「地域文化理解」の授業シラバス

実施日	授業内容	実施場所
04.12	オリエンテーション、事前アンケート	学内（教室）
04.26	講義「高知紹介」（授業担当者 & 学生団体「コンパス」代表）	学内（教室）
05.10	協働学習 インタビューの準備	学内（教室）
05.11	体験学習 ①茶摘み体験 ②地元の方と昼食を交えて交流 ③地元の方へのインタビュー	学外 （大豊町立川地区）
05.17	協働学習「茶摘み体験」振り返り	学内（教室）
06.11	体験学習 ①浴衣着付け体験（学外専門家による着付けの説明、実物による着物・浴衣の紹介を含む） ②龍馬の生まれた町記念館見学 ③ひろめ市場にてインタビュー ④日曜市自由見学	学外 （龍馬の生まれた町記念館・ひろめ市場・日曜市）
06.14	「浴衣着付け体験」等の振り返り	学内（教室）
06.28	講義「神社について」（学内教授）	学内（教室）
06.30	体験学習 ①朝倉神社夏越祭り参加 ②朝倉神社夏越祭り会場にてインタビュー	学外 （朝倉神社）
07.05	協働学習「夏越祭り」振り返り	学内（教室）
07.12	協働学習 グループ発表の準備	学内（教室）
07.15	グループ発表 テーマ1：「私が考える高知の地域振興」 テーマ2：「高知観光発掘」	学内（教室）

なお、本授業に参加した留学生は10名で、内訳として、中国4名、インドネシア3名、スウェーデン3名である。

### 3．体験学習の概要及び評価

#### 3-1 茶摘み体験

茶摘み体験は大豊町立川地区町役場の協力により実施され、当日の体験学習では、お茶の摘み方の手ほどきを受けた後、茶畑に移動し茶摘みを体験し、その後、お茶の作り方 茶葉の煎り方・揉み方・天日干し作業を体験した。体験後、地元のお茶の専門家によるお茶の歴史やお茶の栽培、さらにはお茶

の種類等についての講義があった。また、お返しとして、授業に参加した中国の3名の留学生から、中国のお茶の作り方、お茶の飲み方、お茶の種類についての紹介があった。その後、地元の方々と昼食をともにし、交流を図りつつ、インタビューを行った。なお、課題として課したインタビューは、昼食等をともにした地元の方々に協力していただいた。後日受講生から提出された振り返りシートの一部（5段階評価）を表2に示す。

〈表2〉茶摘み体験 & 交流活動における評価

NO	振り返りシート内容	5	4	3	2	1	平均
1	茶摘み体験を通じた地元の方との交流で自己紹介ができましたか。	5	5	0	0	0	4.5
2	インタビューした相手のことがよく分かりましたか。	4	3	2	0	0	4.2
3	地元の方とうまく交流ができましたか。	2	4	4	0	0	3.8
4	今回の交流で大豊町のことがよく分かりましたか。	1	5	4	0	0	3.7
5	茶摘みが上手にできましたか。	3	1	4	2	0	3.5

注：5段階評価

よく分かった ← 5・4・3・2・1 → よく分からなかった

よくできた ← 5・4・3・2・1 → 上手にできなかった

ほかに記述のみの設問として、「茶摘み体験で学んだことは何ですか」、「大豊町の活性化には何がポイントだと思いますか」、「今回の茶摘み体験で困ったことを挙げてください」、「今回の学習で感じたこと、思ったことを述べてください」がある。

「大豊町の活性化」については、受講生から「交通が一番の問題だと思います。観光地が少ないから、観光地を有効的に開発することは可能だろうかと思います」、「目印を作ろう！（萌えキャラ付き）」、「やっぱり県外の人と交流するチャンスが増えれば活性化に良いと思います」、「若い人の力が必要だと思います」、「大豊町の方は協力的でまちおこしにいいと思います」、「人口が増えることは必要なポイントだと思います」、「交流です」、「人が少なく

ならないように頑張っています」、「交通などの基礎施設の完備は必要があると思います」等のアイデアが寄せられた。このように、中山間地域の活性化に対しては少子高齢化や交通の便の問題、また、県外の人との交流や観光地としての開発等の問題意識を持ってもらえたと言えよう。

その他、困ったこととして、「年を取った地元の人と交流したとき方言が全然わかりません」、「土佐弁がよく分かりません」、「今回の体験で困ったことは方言だと思います」、「インタビューした相手との交流は困った」等のメッセージが寄せられ、留学生自身の日本語力のほか、方言が交流の妨げになった要因の一つとして考えられる。

また、「今回の学習で感じたこと、思ったこと」の質問には、「地元の方から、地域のものすごい高齢化と人口減は問題になるということを知りました。すごくびっくりしました。みんなが仲よしでつながりが強いことは感心させられました」、「大豊町の人たちはとても温かくてやさしい方々です。こんな素敵な町が消えることが想像できない」、「大豊町の少子高齢化の状況がひどいです。自然景色がいいけど、観光客がいません」、「この地域は昔と比べて人口がすごく減っています。少子高齢化の現象も厳しいから、大豊町の活性化は必要だが難しい」等の感想が寄せられた。地方の山間部の現状や少子高齢化等の問題を地元の方との交流を通して認識、また意識したことは本授業の「留学生に地域課題を理解」してもらうという目的が達せられたと考えられる。

### 3-2 浴衣着付け体験

浴衣着付け体験等は着物に精通する地元の方のご厚意により実現された。当日の体験学習では「龍馬の生まれた町記念館」の一室を借り、着物や浴衣について本授業のために持ってきていただいた実物を展示しつつ、着物の種類や着付け方について説明された。その後、受講生全員が浴衣を着せてもらった上、一部の浴衣等が受講生にプレゼントされ、貴重な着付け体験になったのではないと思われる。また、同日その他の活動として、学芸員による「龍馬の生まれた町記念館」についての紹介があり、高知市街地の古い町並みを再現したモデル等を見学し、受講生は熱心に説明に聞き入っていた。浴衣着付け体験後、各自ひろめ市場にて地元の方や観光客に対してインタビューを実施した。

〈表3〉 浴衣着付け体験&amp;ひろめ市場インタビューにおける評価

NO	振り返りシート内容	5	4	3	2	1	平均
1	ひろめ市場のインタビューでインタビューの目的を相手に上手に伝えられましたか。	5	3	2	0	0	4.0
2	インタビューした相手のことがよく分かりましたか。	5	3	2	0	0	4.3
3	インタビューを通して地元の方とうまく交流ができましたか。	5	3	2	0	0	4.3
4	浴衣の着付け方がよく分かりましたか。	1	6	2	1	0	3.7
5	着物の種類や着るときの作法が理解できましたか。	1	6	2	1	0	3.7

注：5段階評価

よく分かった ← 5・4・3・2・1 → よく分からなかった  
 よくできた ← 5・4・3・2・1 → 上手にできなかった  
 理解できた ← 5・4・3・2・1 → 理解できなかった

その他、記述のみの設問として、「記念館学芸員の龍馬の説明から学んだことは何ですか」、「高知市街の活性化には何がポイントだと思いますか」、「浴衣着付け体験やひろめ市場のインタビューで困ったことを挙げてください」、「今回の体験学習で感じたこと、思ったことを述べてください」がある。

「高知市街の活性化」の質問に対しては、「特徴がある店が少ないと思う。まつりを多くした方がいいと思う」、「祭を作ります。イベントを作ります。高知の特有物を展示します。スタンプラリーもいい発想だと思います」、「いい店をテレビで放送します。そして知名度が上げられます。見る人が増えるなら、市街に来る人も増えます」、「イベントを増やせばと思います」、「自然をピーアールすると思います」、「イベントで観光客に高知のアピールをするということです」、「やはり交通をもっと便利にすればいいと思います」、「地元の物をもっとPRする。カツオのタタキ以外の物もPRしたほうがいい」等の提案が寄せられた。高知をよりアピールすべきだとの提案とともに、イベントの開催等が町の活性化に繋がるとの提案も多かった。

## 3-3 夏越祭り体験

大学近隣の神社において神主の協力を得て、夏越祭りにおける輪抜けの意味並びに輪の通り方の説明を受け、輪抜けを体験した。まず、神社の境内に縁日のため出店されている屋台を見学し、手水所で手や口を清め茅輪めぐりを体験し、本殿でお参りした。その後、神主の配慮により神社の拝殿に上がらせてもらい、本殿の内部を見学させてもらった。神主が本殿の供え物や銅鏡、お祓いの道具、天井の絵画について説明してくれ、留学生の質問に対しても丁寧に回答してくれた。そして、神社の氏子に対する儀式や輪抜けの祝詞を見学した後、各自のペースで夏越え祭りの参拝客に対してインタビューを実施した。

〈表4〉 夏越祭りのインタビューにおける評価

NO	振り返りシート内容	5	4	3	2	1	平均
1	夏越祭りのインタビューでインタビューの目的を相手に上手に伝えられましたか。	3	5	0	0	0	4.3
2	インタビューした相手のことがよく分かりましたか。	3	5	0	0	0	4.3
3	インタビューを通して地元の方とうまく交流ができましたか。	3	3	2	0	0	4.1
4	今回のインタビューで夏越祭りのことがよく分かりましたか。	2	4	2	0	0	4.0
5	輪抜けの意味と輪抜けの仕方が分かりましたか。	4	2	1	1	0	4.1

注1：5段階評価

よく分かった ← 5・4・3・2・1 → よく分からなかった

よくできた ← 5・4・3・2・1 → 上手にできなかった

注2：体験学習に2名が欠席したため、振り返りシートは8名分のみである。

その他、記述のみの設問として、「夏越祭りの体験を通して学んだことは何ですか」、「お祭りにもっとたくさんの人に来てもらうには何がポイントだと思いますか」、「夏越祭りの体験とインタビューで困ったことを挙げてください」、「今回の体験で感じたこと、思ったことを述べてください」がある。

「お祭りの活性化」の質問に対しては、「他のイベントも行うほうがいい

かと思う」、「宣伝の力がもっと大きい(先生が言わないと全然分からなかった)」、「ポスターを作って、駅とか学校とか宣伝します」、「出店を安くしてほしいです」、「みんなは屋台とかおいしい食べ物を食べたいから、その祭りに来ました。もちろん輪拔をしたい人もいますけど、やはりポイントは屋台です」、のような提案が上がった。神社のお祭りは地元の方が毎年親しんでいるものであっても、他所から来た留学生等にとっては既知の情報ではないため、観光客を増やすには、ポスターやチラシの配布が有効であると思われる。

「夏越祭りの体験とインタビューで困ったこと」の質問に対して、「上手くできて、ありがたいと思う」、「インタビューするときはタイミングが分からない。お客さんに迷惑をかけたかもしれない」、「みんなはけっこう忙しいですから、インタビューされたくない人もいます。お祭りしかないものが屋台で売っていました」、「なかなかインタビューされる人が見つけにくいと思います」、「さいしょの自己紹介はあまりうまくできなかったです」との感想が寄せられ、見知らぬ人にインタビューをするのは大きな試練であったことがうかがえる。ひろめ市場でのインタビューも同様の感想が寄せられていた。

### 3-4 体験学習の平均評価

表5は表2、表3、表4から平均値のみを抽出したものである。体験内容により、質問の内容に多少違いがあるが、大きな相違はない。1の「インタビューの目的の伝達」の平均値はいずれも4.0以上あり、特に「茶摘み体験」はインタビューの初回であるにもかかわらず評価が高いのは、インタビューに協力してくれた相手が留学生との交流を目的に参加してくれた地元の方々と、一緒に昼食を取り、その後室内で落ち着いて話ができたからではないかと考えられる。それに対し、ひろめ市場及び朝倉神社でのインタビューでは各自インタビューの相手を見付けなければならず、そのような条件のもとで、留学生がよく頑張っているインタビューの目的を伝え、インタビューに協力してもらったと思われる。

2の「相手に対する理解」の平均値も4.2、4.3と比較的高く、インタビューが丁寧にインタビューに答えてくれたことがうかがえる。

3の「地元の方との交流」の平均値は、それぞれ3.7、4.3、4.1であり、交流環境が最も整っていた「茶摘み体験」の交流の平均値が他の2件の体験学習の交流よりも評価が低かったのは、3-1で述べた方言がその一因であろう。それに対し、ひろめ市場及び朝倉神社でのインタビューでは、自らイン

タビューの相手を見付けなければならないという厳しい条件であったにもかかわらず、自分と年齢層が近い人、そして方言ではなく、分かりやすい標準語で対応してもらえたための結果ではないか考えられる。

4 及び 5 の「各活動・文化における理解」に関しては、体験学習として自分自身が理解したうえで一人でもできるものとして夏越祭りが4.1であるが、茶摘み体験が3.6、着付け体験が3.7とその活動自体が理解はできてても実際に自分自身で行うにはハードルが高いものが低い評価になっていることが分かる。

〈表 5〉 体験学習の平均評価

NO	茶摘み体験	平均	浴衣着付け体験	平均	夏越祭り体験	平均
1	茶摘み体験を通じた地元の方との交流で自己紹介ができましたか。	4.5	ひろめ市場のインタビューでインタビューの目的を相手に上手に伝えられましたか。	4.0	夏越祭りのインタビューでインタビューの目的を相手に上手に伝えられましたか。	4.3
2	インタビューした相手のことがよく分かりましたか。	4.2	インタビューした相手のことがよく分かりましたか。	4.3	インタビューした相手のことがよく分かりましたか。	4.3
3	地元の方とうまく交流ができましたか。	3.8	インタビューを通して地元の方とうまく交流ができましたか。	4.3	インタビューを通して地元の方とうまく交流ができましたか。	4.1
4	今回の交流で大豊町のことがよく分かりましたか。	3.7	浴衣の着付け方がよく分かりましたか。	3.7	今回のインタビューで夏越祭りのことがよく分かりましたか。	4.0
5	茶摘みが上手にできましたか。	3.5	着物の種類や着るときの作法が理解できましたか。	3.7	輪抜けの意味と輪抜けの仕方が分かりましたか。	4.1

#### 4. グループ発表

最終発表は三つのグループに分かれて、「私が考える高知の地域振興」と「高知観光発掘」の二つのテーマから一つ選び、体験学習も含め、高知に来て経験したことや感じたこと、考えたこと等について発表してもらった。

Aグループは「高知観光発掘」をテーマにし、発表者がすでに行ったところやこれから行きたいところである高知の見どころ「絵金祭り」、「どろめ祭り」、「カツオの一本釣り」、「足摺岬」、「室戸」等について紹介した。

C グループも「高知観光発掘」をテーマにし、高知を三日間かけて観光するというイメージで、「牧野植物園」、「五台山」、「黒潮町」、「仁淀川」、「四万十川」、「四国カルスト」、「龍河洞」等の高知の自然、さらには高知のお祭り情報についての紹介があった。

B グループは「私が考える高知の地域振興」をテーマに、高知での実体験を交えて、「複数言語での案内看板を作る」、「自分でガイドに挑戦する」、「高知で複数言語を使用するガイドが増えてほしい」、「修学旅行などでの田舎体験」、「食事先のメニューは英語を併記」、「どこのコンビニでもクレジットカードでお金が引き出せるようにする」、「よさこい祭り期間中パンフレットを配る」、「携帯電話の電波の普及」、「高知を舞台としてアニメを作る」、「共用自転車で高知を回る」、「山の上に旅館を作る」、「夏にお化け屋敷を作る」、「番組で高知のものを紹介する」といった提案があった。

実現するには地方自治体、県民・市民の協力、民間団体等の協力が不可欠なものが多いが、アイディアや提案自体はいずれも高知振興に繋がるものであると思われる。

## 5．終了アンケート結果

授業終了時に実施したアンケートでは、受講生から概ね高い評価が得られた。特に、表6の6の「体験学習の満足度」については4.8と高く、受講生から「毎回の授業の活動がすごくうれしかったですから」、「たくさん交流できてよかったと思います」、「いろいろなところへ行った。いろいろ体験しました」、「たくさん新しいことを見つけました」、「いろいろなところへ行って、地元の人と一緒に交流ができて、いろいろな体験をしましたから、とても良かったです」、「ことばで言えなく、ただ、まんぞくだけです」、「分からない高知のことが勉強になって良かったです」、「面白い授業です、そして高知の地域文化も深い理解ができます」等のコメントが寄せられた。このことから、地域文化に対する理解が深まったと同時に、体験を通して地域の方々との交流ができたことで本課題の取組みが有効であったと言える。また、3回に渡って実施した体験学習の個別評価についても4.5、4.8、4.6といずれも高い評価が得られた。

〈表6〉 終了アンケートの評価の平均

NO	内 容	5	4	3	2	1	平均
1	「地域文化理解」の授業を受けて、地域文化に対して理解が深まりましたか。	2	8	0	0	0	4.2
2	一連の活動を通して、高知の地元の人々との交流はできましたか。	2	8	0	0	0	4.0
3	高知の地元の人々との交流を通して、地域住民への理解が深まりましたか。	2	6	2	0	0	3.8
4	一連の活動を通して、他の留学生との交流はできましたか。	4	5	1	0	0	4.3
5	他の留学生との交流を通して、他文化への理解が深まりましたか。	2	6	1	1	0	3.9
6	今回の一連の授業の活動の満足度を5段階で評価してください。	9	0	1	0	0	4.8
	① 茶摘み体験&交流	6	3	1	0	0	4.5
	② 龍馬の生まれた町記念館・着付け体験&ひろめ市場	8	2	0	0	0	4.8
	③ 朝倉神社夏越祭り	5	3	0	0	0	4.6

その他の記述式質問に対する回答であるが、「授業の取り組みとしてのインタビューにおいて困ったこと」については、「インタビューの相手を見つけるのが難しい」との感想が最も多く、見知らぬ人に声をかけ、インタビューに協力してもらうのは留学生にとって言葉の壁もあったが、相手の邪魔になるのではないという不安が生じたようだ。

また、「高知を観光して困った点」については、「食事する店が少ないし、休憩する場所も少ないと思う」、「場所を紹介してくれたが、交通が不便で、お金もたくさんかかります」、「交通機関があまりありません。話すときよく方言をつかっています」、「一番困ったことは交通機関です。そして田舎の方へ行くと電波がなくなったので、とても不便だと思います」、「どうやってバスで観光地へ直接に行けるか分かりにくかったと思いました」、「英語のサインがないことです」のような意見が挙がった。高知県は東から西に長く、中心部の高知市内は電車やバスのような交通網が発達しているが、その他の地

域へのアクセスが悪く、通信・交通インフラの整備や公共施設の充実が求められていることが分かる。

さらに、「高知観光の改善点」については、「食事の店や休憩する場所を多くした方がいいと思う」、「観光ガイドを増加する。交通手段を増加する」、「交通機関を増やしたほうがよいと思います」、「交通を改善したほうがいい!」、「外国人の観光客に対して、日本語が分からない人が読めないところが多いです。たとえば、高知城に入ったら、高知城について情報を読める人は日本人しかできないのは日本語で書いてあるばかりだからです。つまり、観光地で外国人が勉強になるために、もっと英語で書くことを改善したほうがいいのではないのでしょうか」、「英語の案内です」、「英語のサインがいます」との声が挙がった。インフラ整備はもちろんのこと、外国人観光客に対して多言語による案内表示やガイドの工夫等「優しいまちづくり」が求められていると言える。

そして、「外国人の目線から高知の観光資源への提案」については、「交通のアクセスが一番大事だと思う」、「もっと便利な交通が重要です」、「交通機関があまりないから、車がない人が行くのは難しくなります」、「高知の自然はとても豊かです。そのへんは外国人に紹介したいと思います」、「祭りの時間と場所は看板とか、インターネットで書いたほうがいいと思います」、「テレビ番組で紹介されると、いいと思います」、「もっと英語を使ったほうがいいと思います。そうすると、外国人の観光客が増えてきます」、「高知の自然風景はとても豊かです。けれども、外国語の対応があれば、いいと思います」という意見が提案された。交通網の整備を差し引いても高知の自然や祭りについては一見の価値があるとの意見があり、より多くの観光客を呼び込むためには多様なメディアを使用した宣伝や多言語による観光案内の工夫が必要であるとの声が多かった。

その他、「気づいたこと」については、「案内の言語がない。多くの国の言語で作られたら、よくなると思う」、「今日本で外国人がたくさんいるので、パンフレットの観光案内で日本語だけではなく、英語があったらいいと思います」、「人が知らない場所だけど、とてもきれいな町とか、佐川町、大豊町」、「この授業はおもしろくて、いろいろなことを体験できます。なのに、受ける人が少ないですが、もっともっと留学生を参加させるべきです」、「この授業をうけることができてよかった!」、「セブンイレブンだけで外国人はお金が引き出せるので、困っています。これは自分の経験から学んだことです、

「外国人としていつも見られていることは気になります。そのため高知で外国人が増えてほしいと思っています」、「高知は、とっても暮らしやすいところです。年を取るとき、高知で暮らしたいですね」との声があった。高知県に住んで経験しないと分からない高知の良さを留学生自身が体験学習を通して実感した様子を読み取れる。また、他の留学生や観光客に対しても高知の魅力を知ってもらいたいという気持ちから地域の活性化に関する前向きな提案がされていることがうかがえる。

このように、全ての記述式質問の回答において観光地の多言語による案内の工夫、祭りやイベント等の宣伝の工夫、さらに交通の便の改善等についての提案が多く見られたことが分かる。

## 6. 今後の課題

今回の体験型学習を通して、「5. 終了アンケート結果」で分かるように体験学習の有効性等が実証された。次年度は高校生との交流や郷土料理体験等地元住民との交流をプログラムの柱として据えることにした。また、2018年度は改善したプログラムを共通教育の正課の授業として開講予定であり、留学生だけでなく日本人学生とともに学べる授業科目として設置されている。

2018年度に開講予定の「地域文化理解」の授業内容は下記の通りである。

〈表7〉 共通教育教養科目「地域文化理解」第2学期開講案

回数	日時	授業内容	回数	日時	授業内容
1	10/3	オリエンテーション、事前アンケート実施	10	12/5	日本料理に関する事前学習
2	10/7	高知地域に関する講義 インタビュー準備	11/12/13	12/8	日本料理体験
3/4	10/20	体験学習（地元高校生との交流活動・インタビュー）	14	12/12	日本料理体験の振り返り
5	10/24	体験学習の振り返り 事前学習（神社について）	15	12/19	グループ別最終発表準備
6/7/8	10/28	神社のお祭り体験	16	1/9	グループ発表 テーマ1：「私が考える高知の地域振興」 テーマ2：「高知観光発掘」
9	10/31	お祭り体験の振り返り			

## 付記

本プログラムの実施に当たり、大学から「大学機能強化促進経費」の支援を受け、関連事業として「地元高校生との交流事業」や授業において「よさこい祭り」の紹介も実施された。「高校生との交流事業」についても有効性が実証され、次年度のプログラムにおいて地域との交流をプログラムの柱として据えており、表7のプログラムに反映されている。

## 参考文献

- 大塚薫・林翠芳(2016)「日韓中協定校体験型プログラムの実践と課題 高知文化事情に触れる体験を通して」『韓国日本語学会第33回国際学術発表大会論文集』、pp.100-105
- 大塚薫・林翠芳(2017)「グローバルな視点に基づいた体験型プログラムの構築 地域文化・観光体験調査の結果を通して」『韓国日本語学会第35回国際学術発表大会論文集』、pp.115 -120

LIN Cuifang

(高知大学国際連携推進センター国際連携教育部門教授)

おおつか かおる

(高知大学国際連携推進センター国際連携教育部門准教授)

GARCIA del Saz Eva

(高知大学国際連携推進センター国際プロジェクト部門助教)